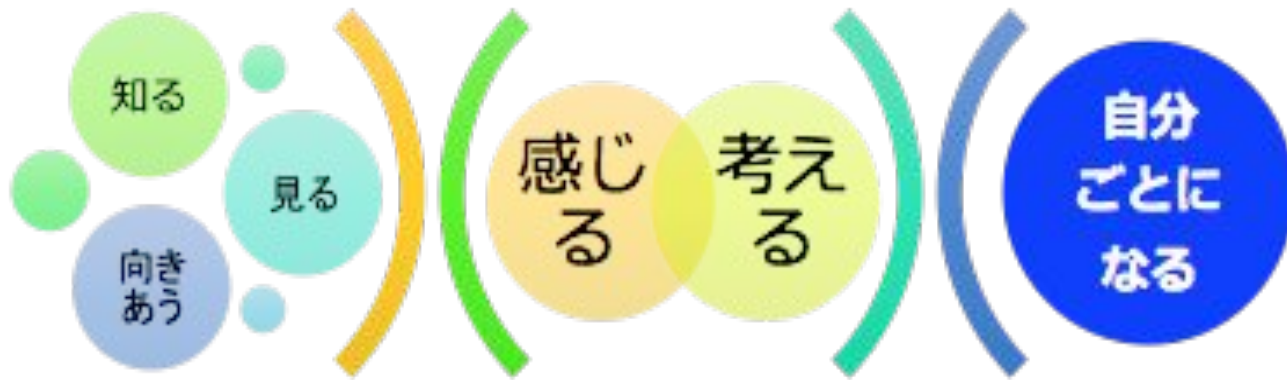


---

# 大槌町 アクティブラーニング プログラム



# 大槌町アクティブラーニングプログラムの特徴



①インプット

②アウトプット

③学びの定着



「生きる」を自分ごとに:インプット



震災を知る  
語り部ガイド



地域に根ざした  
文化を見る



自然と向き合う体験





「生きる」を自分ごとに:アウトプット



心が動かされる出会い



自らの考えを発信し、相手の思いを知るワークショップ







自然との共存、地域のつながり、そして震災を学び  
生徒の生きる力へとつなげる旅を  
大槌町全体でプロデュースします



# 体験コンテンツの 紹介

正解のない問いに  
向き合う旅に  
出かけませんか？





町を周りながら、震災時に何があったのか、復興の課題は何か、暮らしを再建させるとはどういうことなのか、ガイドとともに理解を深めます。

時間:60分-90分

料金:生徒一人1000円

伝えたいことは、ただ一つ。

**大切な人を、大切に。**

\*新型コロナウイルス感染拡大防止策として、お客様の車/バスにガイドが同乗するのを遠慮させていただく場合があります。

①大槌町文化交流センターにてガイドと合流 (大槌町末広町1-15 \*サブインレブ横)

②センター内にて、震災資料/ビデオ鑑賞 (30分ほど)

\*トイレ休憩も可能です  
\*火曜日は、センター休館日のため見学はできません。

↓徒歩/バス/車移動 (1分)

③旧役場前跡地へ移動、黙祷とガイド (30分程)

被災した役場庁舎。ここで黙祷をします。そして、ここで何が起こったのかを聞き、あの日の出来事を自分ごとに落としこみます。

↓バス/車移動 (5分)

③高台より復興現場を一望 (20分程)

被災時に避難場所としても機能した高台より町の中心部を一望し、復興の現実を見つめます。\*バス利用時は、この行程は省きます。

↓バス/車移動 (10分)

④蓬莱島 (15分程)

井上ひさしの「ひょっこりひょうたん島」のモデルになったと言われている島。島にまつわる町民の面白い思い出話や、幾度の津波を乗り越えて来た先人たちの話を聞き、なぜ大槌人がこの町にこだわっているのかに思いを馳せます。

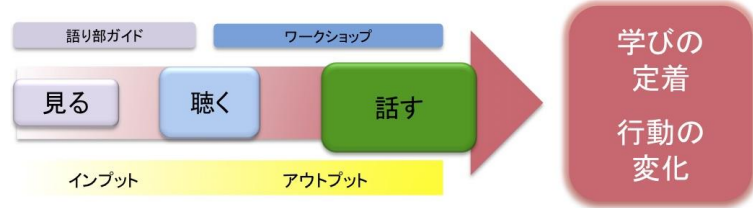
↓バス/車移動 (10分)

⑤ガイドとお別れ (文化交流センターにて)



# 決断のワークショップ

大槌町の町民がリアルに体験した、被災時や復興期の正解のない課題について、自分の思いを発信し、多様な意見に耳を傾け、最終的に「決断」を下すワークショップです。



被災時、復興期に町民が直面した正解がない課題について考え、決断を下すワークショップ。復興の難しさや、**決断**に必要な覚悟について体感できます。

時間: 120分

料金: 生徒一人5000円

## ■問題例

\*研修参加者には事前に見せなくて下さい。

リーダー: あなたは大槌町都市整備課長です。

その他: あなたは大槌町職員です。

大槌町では、壊れた防潮堤の再建について意見が割れています。

案①: 6.4M(現存の高さ)の防潮堤

- ・ 頻度の高い(30年~40年に一度)津波を防ぐ
- ・ 東日本大震災規模の津波では、再び大きな被害がでる
- ・ 新しい土地を買わなくて済む=以前の場所に戻れる

案②: 16.5Mの防潮堤

- ・ 100年に一度の津波(頻度は低いが大きい津波)も防げる
- ・ 東日本大震災規模の津波に対して、被害を小さくする
- ・ 新しく土地が必要=以前の場所に戻れない人が出てくる

## ■流れ

- ◎事前には、5人前後のチームにわかれます。
- ◎各課題30分~45分程度x3課題 = 計2時間



1. チームリーダーを決定(課題ごとに代わります)
2. 出題された問題を自分自身で考える(二者択一)
3. チーム内にて、自分の意見を意思表示
4. チーム内にて、自分の思いを共有
5. チーム内で1つの決断を導きだすための話し合い
6. チームリーダーはチームとしての答えを決断し全体へ発表

## ■参加者の声

### <高校教師>

授業では、ほとんど発言しない生徒までが、全員発言しグループディスカッションに参加していたのに驚いた。

### <中学校教師>

修学旅行の初日での研修であつたにもかかわらず、事後の感想で一番多く語られていた。行く前は、中学生には難しいかと思っていたが、逆にこの年代でこのような体験ができたことはとても良かったと感じている。

### <高校生>

テレビやインターネットで見たのとは全く違った。被災した人一人一人に思いがあって、だから復興は難しいんだと感じた。

### <高校生>

自分で決めるということが、こんなに難しいと思わなかった。

# 大槌町震災疑似体験 プログラム

旧町役場にて、地震から津波まで、40分間に何があったのか。なぜ、多くの職員が避難行動をとらなかったのか？

当時の状況を時系列で追いながら、「自分だったら」どうするかを考えるワークショップです。

時間: 120分

料金: 生徒一人 5000円

## 東日本大震災 大槌町役場からの学び

Mio 一般社団法人おらが大槌夢広場

- 災害発生時の状況を追体験するプログラムです。
- 発災時に必要なコミュニケーション力や人との信頼関係について考えます。
- 発災時に、『自分ならどうするか』を問いかけます。



Yahoo! 基盤  
2017 年度助成プログラム

2011年3月11日14時46分。三陸沖を震源とする日本観測史上最大M9.0の地震が起き、岩手県の三陸沿岸に位置する大槌町も震度5から6の揺れに襲われた。地震発生時、直線距離で大槌湾の海岸から300メートルに位置していた大槌町役場庁舎には、在籍する139名の職員うち90名程が働いていた。職員らは、地震が起こってすぐ、もしくは揺れが収まった後に庁舎の外に避難した。

14時49分に、予想される津波の高さは岩手県で3メートルという津波警報が発表される。大槌町役場における規定では、津波警報が出る時災害対策本部を設置し担当職員が住民避難誘導の配置につく。老朽化した庁舎内では危ないということで、誰からとなくテーブルや椅子を役場前の駐車場に出し、災害対策本部の設置を始めた。課の指示を受けて屋内で配置待機をしている職員や、住民の避難誘導のために配置に向かう職員、ワンセグを使って情報収集をしている職員もいた。

3メートルという当初の津波警報の予想に続いて、釜石に数十センチの津波が来たという情報も入り、ほとんどの職員は、津波は来るが6.4メートルの防潮堤を越えるとは考えていなかった。そのため、仮本部設置場所であった約350メートル先の高台の中央公民館に本部を移すという議論は出なかった。また、職員避難の指示も出されていない。

強い余震に続き、15時14分に高さ6メートルという津波警報が発表されたが、庁舎には届かなかった。

15時20分、総務課長が中央公民館へ本部を移動しようと言ったその直後、「津波だ」という誰かの声が響いた。視線をあげた職員らの目には、押し寄せる黒い波が見えた。

一般社団法人おらが大槌夢広場

<http://www.oraga-otsuchi.jp/>

Contact: [mioinusa@gmail.com](mailto:mioinusa@gmail.com)

TEL: 080-8209-2330

代表理事 神谷 未生



自然との共存、地域のつながり、そして震災を学び  
生徒の生きる力へとつなげる旅を  
大槌町全体でプロデュースします





# 大槌町教育旅行 アクティブラーニング ツアー 無料

2021年2月20日土 - 21日 日

\*盛岡発着 (その他、釜石道ICにて乗り降り可能。ご相談ください。)

1泊2日の行程で、自然との共存、地域のつながり、震災を学び、生徒の生きる力へとつなげる旅を大槌町で体験します。

## 自然と生きる暮らしを学ぶ

第1日目

盛岡発→大槌町フィールドワーク  
→東京大学海洋研究所による講義  
→郷土芸能の鑑賞&地域との繋がりについて

## 生きる力を身につける

第2日目

薪割り体験と講和→決断のワークショップ  
→震災疑似体験プログラム→振り返り→盛岡へ

※詳細や催行については、裏面も必ずご確認ください。

募集期間：1月8日-1月30日

お申込/お問合せ：  
一般社団法人おらが大槌夢広場

TEL 080-8209-2330

Mai mioinusa@gmail.com



QRコードより  
申込できます

大槌町教育旅行誘致活動事業補助金事業

行程詳細： 新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、直前でもツアー催行を中止する可能性もあります。あらかじめご了承ください。

- ✓ 各行程にて、ソーシャルディスタンスや3蜜回避など、最善の感染拡大防止対策を徹底した上、実施いたします。
- ✓ 貸切バスは、定員の半数にて運行いたします。

1日目 (2/20) 自然と生きる暮らしを学ぶ	
10時ごろ	盛岡駅周辺 貸切バスにて出発
正午	大槌町内にて昼食
13時-15時	<b>体験①：大槌町フィールドワーク</b> 町内を歩きながら、震災当日の様子を語り部から話を聞く。あの日あったこと、復興の課題、そしてそれでも、なぜこの町で生き続けるのか。「生きる」ことを考え始める時間です。
15時-17時	<b>体験②：東京大学海洋研究所研究員による講義(地理、海洋、環境などのテーマから後日決定)</b> 大槌湾をベースに多種多様な研究をしている方から、研究を通して見えて来た三陸のユニークな地形や環境、そしてそれが暮らしに与える影響について聞きます。
17:30ごろ	三陸花ホテル はまぎく チェックイン *宿泊は、お一人様一部屋にてご案内いたします。
夜	<b>体験③：郷土芸能鑑賞および講和</b> 郷土芸能がとても盛んな大槌。郷土芸能により、多世代間交流や地域の繋がりが保たれています。迫力満点の郷土芸能を鑑賞し、郷土芸能が地域に果たす役割について話を聞きます。

2日目 (2/21) 生きる力を身につける	
午前中	<b>体験④：薪割り体験と講和</b> 薪割り体験をした後、震災後に林業系団体をたちあげた方の思いや価値観の変容について話を聞きます。
正午	大槌町内にて昼食
午後	<b>体験⑤：ワークショップ</b> 大槌町は、被災時そして復興時も今も、「正解のない課題」に直面しつづけています。様々な思いが交錯する課題を、誰が、どう決めれば良いのか。究極のアクティブラーニングを、「生きた題材」でお届けします。
15:30ごろ	盛岡へむけて出発

\*今後の調整にて、一部行程が変更になる可能性もあります。詳細は、参加が決定した方にお知らせいたします。

実施概要：

[定員] 14名 \*先着順ではありません。お申し込み多数の場合、各学校1名などの調整をさせていただきます。  
[対象] 若手県内の小中高等学校の教員で、震災学習や沿岸地域での学びに興味がある方  
[料金] 無料 (含まれるもの：①盛岡からの交通費 ②宿泊費(1泊) ③食事代(昼2夜1朝1) ④体験料)



人は考え、成長する





一般社団法人おらが大槌夢広場  
代表理事 神谷 未生

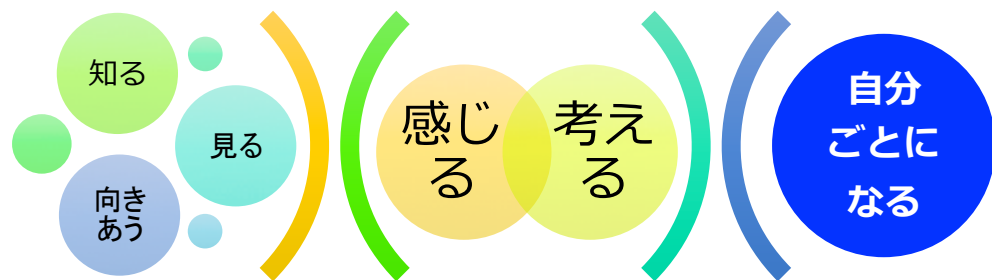
Mail: [mioinusa@gmail.com](mailto:mioinusa@gmail.com)

Phone: 080-8209-2330

HP: <http://www.oraga-otsuchi.jp/>



暮らし



地域



生きる  
こと



震災



学び



# 大槌町教育旅行 アクティブラーニング ツアー

無料

岩手県内の小中高等学校の先生方、関係者対象

2021年2月20日 土 - 21日 日

\*盛岡発着（その他、釜石道ICにて乗り降り可能。ご相談ください。）

1泊2日の行程で、自然との共存、地域のつながり、震災を学び、生徒の生きる力へとつなげる旅を大槌町で体験します。

## 自然と生きる暮らしを学ぶ

第1日目

盛岡発→大槌町フィールドワーク  
→東京大学海洋研究所による講義  
→郷土芸能の鑑賞&地域との繋がりについて

## 生きる力を身につける

第2日目

薪割り体験と講和→決断のワークショップ  
→震災疑似体験プログラム→振り返り→盛岡へ

※詳細や催行については、裏面も必ずご確認ください。

募集期間：12月25日—1月30日

お申込/お問合せ：  
一般社団法人おらが大槌夢広場

TEL 080-8209-2330

Mail mioinusa@gmail.com



QRコードより  
申込できます

## 行程詳細：

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、直前でもツアー催行を中止する可能性があります。あらかじめご了承ください。

- ✓ 各行程にて、ソーシャルディスタンスや3蜜回避など、最善の感染拡大防止対策を徹底した上、実施いたします。
- ✓ 貸切バスは、定員の半数にて運行いたします。

1日目  
(2/20)

## 自然と生きる暮らしを学ぶ

10時ごろ 盛岡駅周辺 貸切バスにて出発

正午 大槌町内にて昼食

13時-15時 **体験①：大槌町フィールドワーク**  
町内を歩きながら、震災当日の様子を語り部から話を聞く。あの日あったこと、復興の課題、そしてそれでも、なぜこの町で生き続けるのか。「生きる」ことを考え始める時間です。

15時-17時 **体験②：東京大学海洋研究所研究員による講義（地理、海洋、環境などのテーマから後日決定）**  
大槌湾をベースに多種多様な研究をしている方から、研究を通して見えて来た三陸のユニークな地形や環境、そしてそれが暮らしに与える影響について聞きます。

17:30ごろ 三陸花ホテル はまぎく チェックイン  
\*宿泊は、お一人様一部屋にてご案内いたします。

夜 **体験③：郷土芸能鑑賞および講和**  
郷土芸能がとても盛んな大槌。郷土芸能により、多世代間交流や地域の繋がりが保たれています。迫力満点の郷土芸能を鑑賞し、郷土芸能が地域に果たす役割について話を聞きます。

2日目  
(2/21)

## 生きる力を身につける

午前中 **体験④：薪割り体験と講和**  
薪割り体験をした後、震災後に林業系団体をたちあげた方の思いや価値観の変容について話を聞きます。

正午 大槌町内にて昼食

午後 **体験⑤：ワークショップ**  
大槌町は、被災時そして復興時も今も、「正解のない課題」に直面しつづけています。様々な思いが交錯する課題を、誰が、どう決めれば良いのか。究極のアクティブラーニングを、「生きた題材」でお届けします。

15:30ごろ 盛岡へむけて出発

\*今後の調整にて、一部行程が変更になる可能性もあります。詳細は、参加が決定した方にお知らせいたします。

### 実施概要：

[定員] 14名 \*先着順ではありません。お申し込み多数の場合、各学校1名などの調整をさせていただきます。

[対象] 岩手県内の小中高等学校の教員で、震災学習や沿岸地域での学びに興味がある方

[料金] 無料 (含まれるもの：①盛岡からの交通費 ②宿泊費(1泊) ③食事代(昼2夜1朝1) ④体験料)